

田尻町における玉葱栽培について

泉州地域での玉葱栽培の始まりは、土生郷村、現在の岸和田市土生町で日根郡の勧業委員をしていた坂口平三郎氏のお宅に田尻町の篤農家らが伺った際、庭に植えられていた3・4株の玉葱を見かけた事がきっかけです。

一説によりますと、坂口さんからは、神戸の米国人から玉葱を入手したと聴き、吉見の今井、大門、道浦の3氏が坂口さんに頼んで6合の種(約1ℓ)を取り寄せました。その種の値段が12円(当時の価値で米540kg相当)、今の値段で(5kg約3,500円として)換算すると約38万円とかなり高額であったそうです。

玉葱は、気候や土壌の違いからなかなかうまく栽培出来なかったようですが、何度も試作を重ねてなんとか完成させる事が出来ました。しかし、今度は全く売れないという事態に陥ってしまいます。そのような中、明治26年頃に転機が訪れます。

大阪市内で赤痢や天然痘などの病が流行り、これに玉葱が効くという噂が広がり高値で売れるようになったそうです。

この結果、後に泉州一帯で玉葱が栽培されるようになりました。

今では全国的にも人気が高くなった淡路島の玉葱も泉州から栽培技術が伝えられており、ルーツは泉州にあるのです。



泉州玉葱栽培の祖



春日神社西側に建てられた石碑は、明治期に、吉見の篤農家である今井佐治平、大門久三郎、道浦吉平の3氏が、玉葱の品種改良を重ね生産技術も確立して、海外にも販路を拡大するなど、玉葱を全国に広める礎となった功績を称えています。

玉葱に関する石碑は、岸和田市と泉南市にも存在します。



田尻町の玉葱栽培面積と収穫量等

関西国際空港やりんくうタウン地区の埋め立て前の田尻町の面積は、 1.92km^2 (192ha) でした。

(参考) 現在の田尻町の面積は、 5.62km^2 (562ha) で、この内農地は、57haです。

明治13年~18年頃に田尻町での玉葱栽培は始まります。

玉葱栽培の最盛期は

(収穫量) 昭和17年

90ha 2,700トン

(栽培面積) 昭和18年

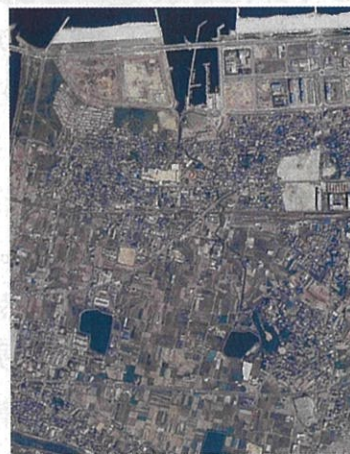
94ha 2,042トン

※田尻町域の約半分の土地が玉葱栽培に使われていたという記録です。

田尻町をとらえた航空写真



昭和22年9月米軍撮影
※田尻町史より抜粋



平成9年5月国土地理院撮影

南海本線『吉見ノ里駅』と駅前商店街

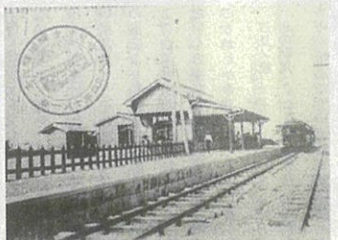
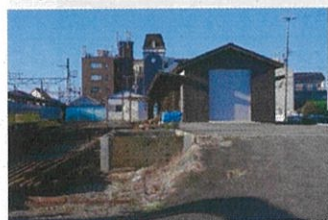
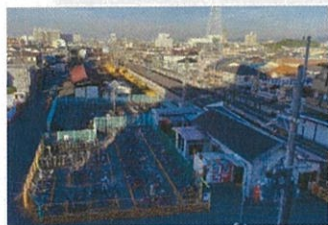


写真110 大正4年10月1日吉見ノ里駅開駅



吉見ノ里駅前商店街

正面の春日神社まで続く約300m程度の商店街ですが、現在では開いている店も少なくなり、廃業して住宅となったところも増えました。春日神社の裏手には、紡績工場が立ち並んでいました。

南海本線『吉見ノ里駅』

吉見ノ里駅には玉葱や原綿、綿製品等を積み込むホームが設けられ、この駅から大量の泉州玉葱が全国へ送られました。当時は、駅を降りるとたまねぎの臭いが漂っていたと聞いています。

農協が昭和63年頃に“今井早生”や“吉見早生”等の扁平な玉葱の出荷を停止し、当時主流となっていた丸い玉葱だけを取り扱うようになった。

**出荷が出来なくなったのは
次のような理由・・・**

- ①水分が多く、美味しい玉葱であったが、腐りやすいという欠点が長距離の出荷にそぐわなかった。
- ②選果機での仕分けで、同じ寸法でも、丸い玉葱に比べて重量が少なかった。
- ③扁平な形が機械加工に向かなかった。（皮を剥いたり切ったりしにくい）



“今井早生”や“吉見早生”は、美味しい玉葱であったため、出荷停止後も、一部の農家が自分達で食べる分だけ栽培を続けていた。

泉州黄玉葱『今井早生』を核とした 農業振興策を農業委員会で検討

きっかけは、朝のテレビ 番組で「今井早生」の 収穫を生中継したこと

平成17年になにわの伝統野菜の認証制度が始まり、その一つに泉州黄玉葱が認証されており、その産地として田尻町が含まれていた。

そのような中、平成18年4月に、某テレビ局から「今井早生」を栽培している農家を紹介してほしいという依頼を受け、当時唯一今井早生を栽培していた農地から収穫作業の生中継が実現した。

この放送をきっかけにして、今井早生を核とした農業振興策の検討が始まった。



農地から生中継で今井早生を紹介しました。

田尻町での泉州黄たまねぎ栽培 (通称:たまねぎプロジェクト)①

泉州黄たまねぎ栽培の発祥地として、古くから今井早生や吉見早生が栽培されていたが、新しい品種の丸い玉葱に切り替わり、昭和63年頃に扁平な玉葱はJAも出荷を停止したことから農家自身が食べるもの以外は栽培しなくなっていた。

プロジェクトの開始に当たり必要となった3つの事

①種の確保・・・購入出来る種屋を農と緑の総合事務所で紹介してもらった。

貝塚市の藤原種苗店で『今井早生』の種が販売されていると伺った。

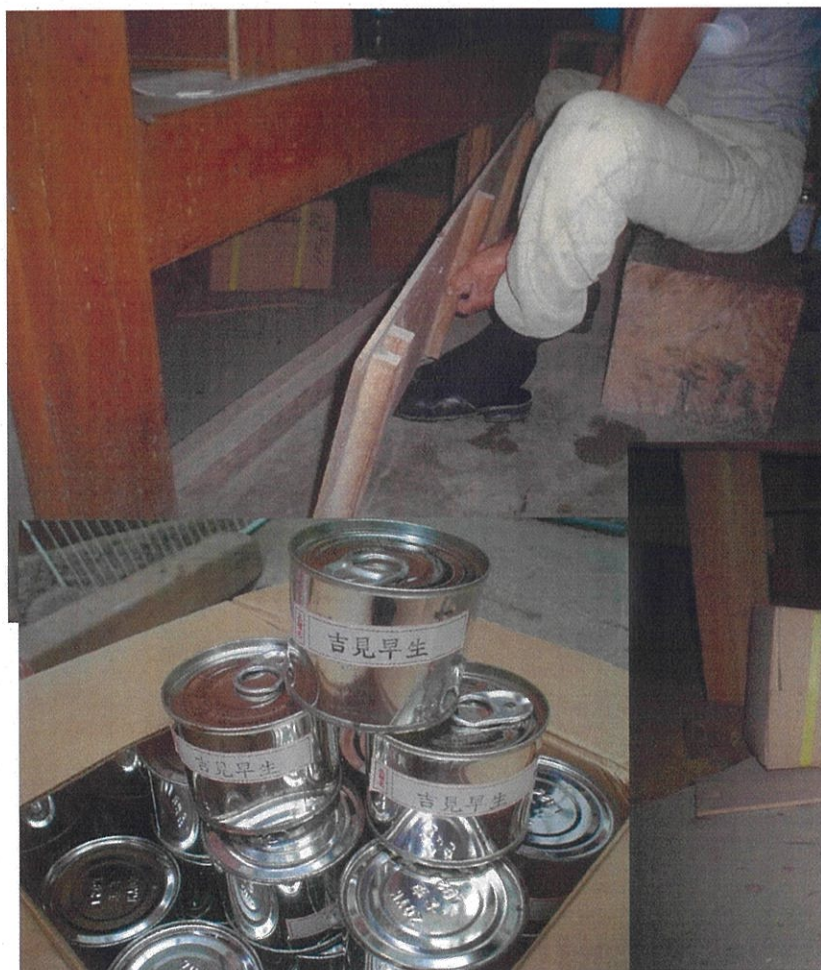
②販路の確保・・・日曜朝市で直売していた農家に販売を委託出来ないか？

直売していた農家にプロジェクトを説明に伺ったところ、その内の1軒で、床下に昭和62年に缶詰めにした『吉見早生』の種が、今でも残っていると聞いた。

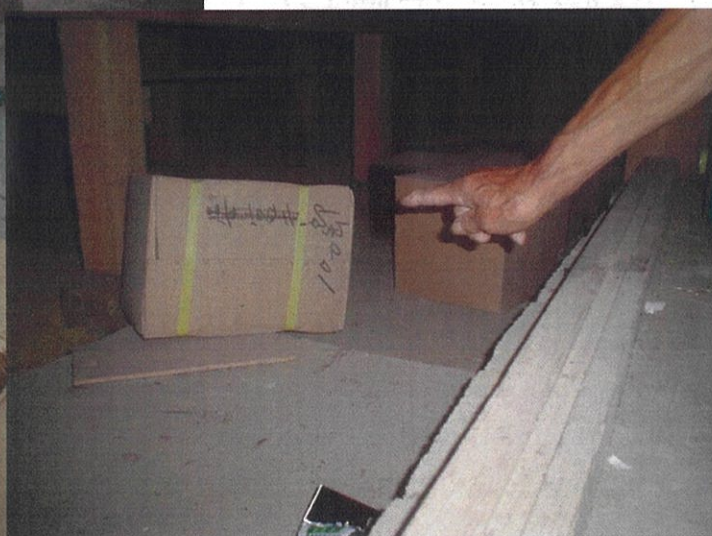
直後、床下を開けてその缶詰を出して来てくれて、そのまま預かった。

大阪府食と緑の技術センター(現府立環境農林水産総合研究所)に持ち込み発芽試験を行って頂いた結果、見事に発芽(3缶を試験して11~62%の種が発芽)した事から『吉見早生』も栽培することになった。

③栽培者の確保・・・農業委員の中から栽培者を募り、2軒の農家に栽培を依頼した。



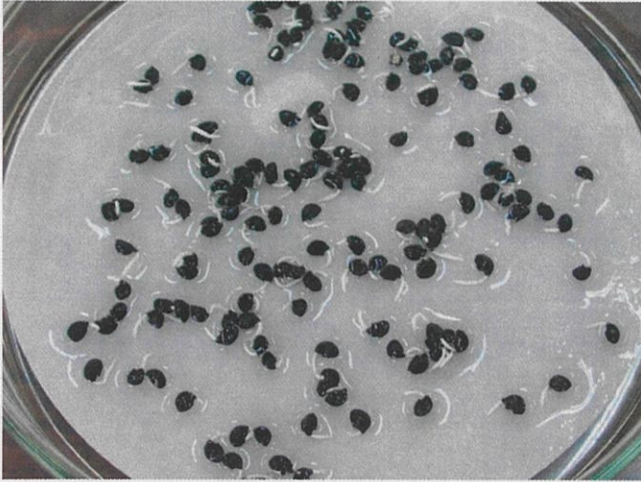
玉葱の種は
こんなところに
眠っていました



発芽試験の実施

約20年程農家の床下に眠っていた事から、本当に発芽するのか確認する必要があり、大阪府食と緑の技術センター（現府立環境農林水産総合研究所）に持ち込み発芽試験を行って頂きました。

（発芽試験）持参した缶詰から3缶を選び、1つの缶につき100粒ずつシャーレに入れて12日間行った。結果、発芽率は、①11.3%、②62.8%、③48.0%と平均40.7%でした。



↑ 大阪府立食とみどりの総合技術センターでの発芽試験の様子



↑ 缶を開けて種を蒔いた約3週間後の様子

この結果を受けて栽培した結果、見事20年ぶりに『吉見早生』が復活しました。



田尻町での泉州黄たまねぎ栽培 (通称:たまねぎプロジェクト)②

泉州黄玉葱の復活栽培が成功した事から『泉州黄たまねぎ祭』を開催し、吉見早生をPRすることに・・・。

①どんなイベントにするか・・・

日曜朝市に来るお客さんをターゲットに、吉見早生や今井早生を販売すると共に、吉見早生の美味しさを知ってもらえるイベントになるように考えた。

②イベントへの参加者を確保し役割を検討・・・

販売は生産者、試食は婦人会と食改善団体に依頼
イベントのPRや盛り上げは田尻町と漁業協同組合
泉州黄玉葱以外の農産物の直売
田尻歴史館とのコラボ企画等

柔らかくて、甘い!!
これが「たまねぎ栽培発祥の地、
田尻特産「吉見早生・今井早生」

泉州黄たまねぎ祭

昔食べたたまねぎの味、もう一度思い出してみませんか?

開催日 平成19年5月13日(日)
時間 午前7時～正午
場所 田尻漁港(日曜朝市会場)

- ・泉州黄たまねぎの試食・販売
※「たまねぎとえびのかきあげ」や「サラダ」などの試食も出来ます。
- ・農産物直売
※地元の農家が作った新鮮な野菜を直売。
- ・古代米無料プレゼント(午前9時から500名限定)
※地元の子ども達と一緒に作った古代米「赤米」です。

玉葱の栽培品種は『今井早生』と『吉見早生』です。
吉見早生は、20年間農家の床下で眠っていた種を復活栽培しています。

(案内図) 日曜朝市会場



お問い合わせ
田尻町 事業部 産業振興課
TEL 072-466-5008
田尻漁業協同組合
TEL 072-466-0099

主催: 田尻町農業委員会、田尻漁業協同組合、田尻町
後援: J A 大阪泉州、田尻町食生活改善推進協議会、田尻町婦人会、田尻歴史館、大阪府たて農産物消費推進協議会、
NPO法人漁漁漁の会、関西国際空港株式会社

田尻歴史館限定特別メニュー登場!!

柔らかくて、甘い!!
これが「たまねぎ栽培発祥の地、
田尻特産「吉見早生・今井早生」

期間限定! 数量限定! 特別メニュー
泉州黄たまねぎのハンバーグランチ
～ネギのクリームソース添え～ 1200円

昔食べたたまねぎの味を洋風にアレンジしてみました。

泉州黄たまねぎのハンバーグランチ
1日10食限定販売 一全5品～
・泉州黄たまねぎを使ったサラダ
・本日のスープ
・泉州黄たまねぎのハンバーグ
～ネギのクリームソース添え～
・ライス又はパン
・ドリンク(コーヒー又は紅茶など)
※ 休館日と貸切の場合は提供できません。

実施日 平成19年5月13日(日) から6月17日(日) まで(水曜除く)
時間 午前11時から～なくなり次第終了
場所 田尻歴史館 ～ カフェ ベラメンテ ～

(案内図)



お問い合わせ
田尻歴史館(指定管理者: 近畿総合メンテナンス㈱)
TEL 072-465-0045 ※水曜休館
http://www.tajiri-kiashikan.com/
田尻町 事業部 産業振興課
TEL 072-466-5008
http://www.town.tajiri.osaka.jp/

平成19年 初めて泉州黄たまねぎ祭を開催



当初の狙い通り、約6000人の来場者を迎え、イベントは成功した。

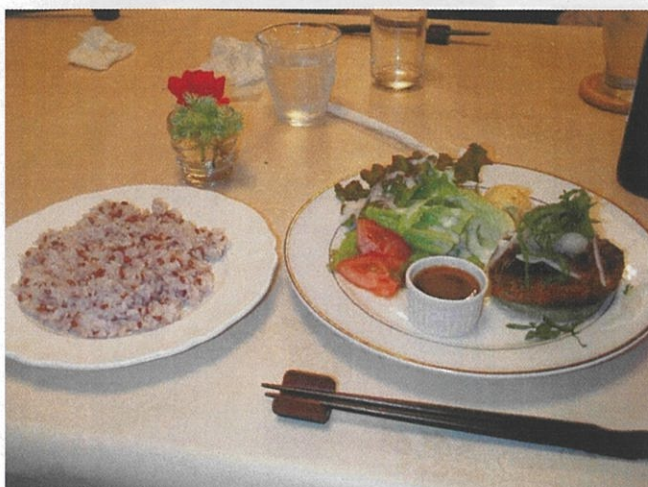
しかし、吉見早生は完売したものの、今井早生は売れ残ってしまった。

今井早生も出荷出来る品種では無い為、今後は販売出来る量を考えて栽培する必要があることもわかった。

吉見早生は売れると確信し、次年度以降も継続して実施するイベントへと繋がった。

『泉州黄たまねぎ祭』とのコラボ企画

歴史館では泉州黄たまねぎの
ハンバーグランチを提供

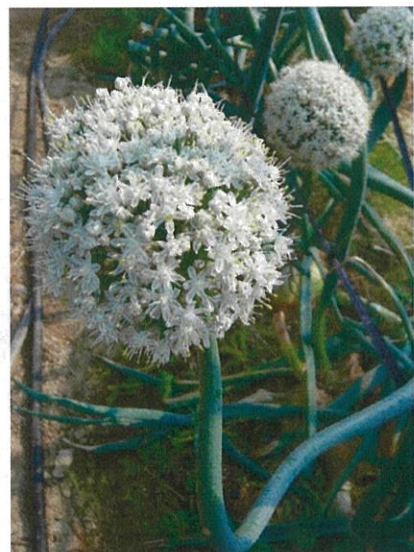


平成20年 2年目の取り組み

- ・ 前年同様に20年間農家の床下で眠っていたたまねぎの種を平成19年9月に播いたが、全く発芽しなくなっていた。
- ・ 急遽農協から今井早生の種を購入し、再度播種を行った。
- ・ 初年度の母球を食と緑の技術センターに預けており、11月の時点で17球だけが腐っていなかった。この17球から採種を行って、今の吉見早生が残っている。

今に繋がった吉見早生の母球

平成20年11月時点で腐っていなかった17球の吉見早生から採種を開始

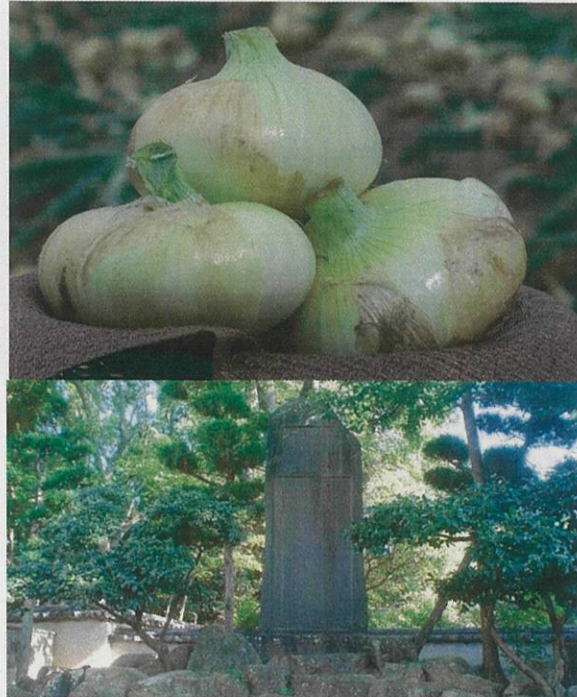
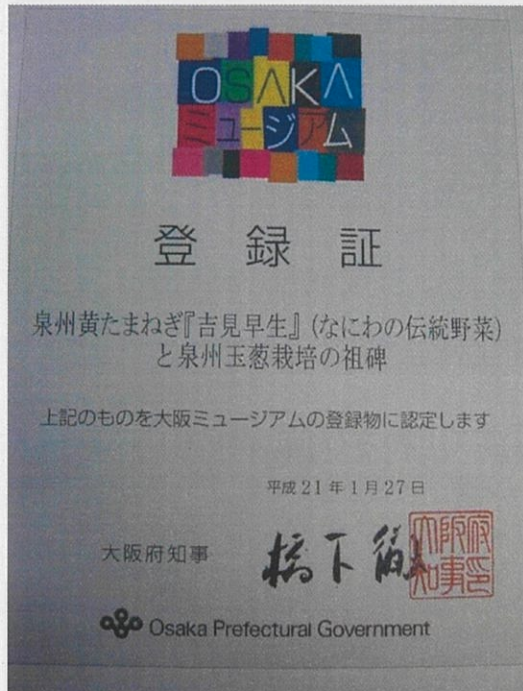


11月に植えた吉見早生が5月に花を咲かせました。

大阪ミュージアムの登録物

泉州黄たまねぎ『吉見早生』(なにわの伝統野菜)と
泉州玉葱栽培の祖碑

泉州黄玉葱『吉見早生』



田尻町のキャラクター

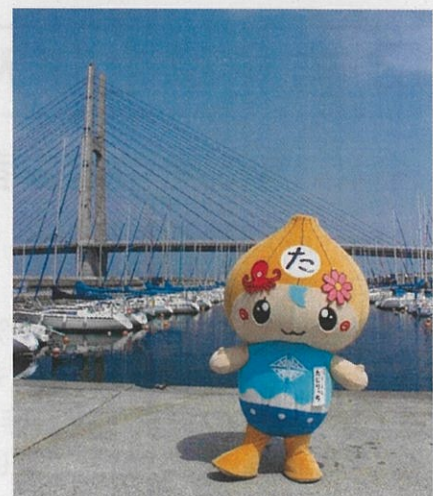
平成25年に誕生した
田尻町マスコット
キャラクター
“たじりっち”



マスコットが誕生するまでの
田尻町のマンホールも玉葱
をモチーフにした図柄を採用



マンホール
カードは
役場や公民
館、漁港の
観光案内所
等で配布



最近“たじりっち”のマンホールも



吉見早生の認知度向上

吉見早生の加工品制作に取り組む

『おつまみのタレ』



大阪調理製菓専門学校の生徒が考案した商品
ネーミングも生徒が味の感想を言った一言から「おつまみのタレ」に決定
(株)川京フーズ 製造

『吉見早生ピクルス』



協議会で「わさび味」と「オリーブオイル味」を製造
(株)イズミピクルス 製造

吉見早生購入者に行ったアンケート結果

令和3年5月（回答者数 335名）

(住 所) 田尻町20% 田尻町を除く府内78% 府外2%
(年 齢) 40歳代24% 50歳代36% 60歳代22% その他18%
(きっかけ) 新聞記事30% メール26% ホームページ・広報等28% その他16%
(吉見早生の感想) とても甘かった58% やや甘かった33% その他9%
(吉見早生の満足度) 非常に満足62% やや満足30% その他8%
(来年も買いたい) 買いたい96% 買いたくない3% 未回答1%

令和4年5月（回答者数 501名）

(住 所) 田尻町20% 田尻町を除く府内76% 府外4%
(年 齢) 40歳代22% 50歳代31% 60歳代26% その他21%
(きっかけ) テレビ(NHK)20% 新聞記事10% メール35%
ホームページ・広報等24% その他11%
(吉見早生の感想) とても甘かった61% やや甘かった31% その他8%
(吉見早生の満足度) 非常に満足71% やや満足23% その他7%